

『原三溪翁伝』第3篇第1章を読み進めました

5月の定例研究会では、『原三溪翁伝』の輪読を進めました。

◆輪読

発表者：山崎宣晴

範囲：pp.514～545

第3篇 性格と趣味

第1章 性格

第9節 果断と沈勇

第10節 名利に恬澹

第11節 人材主義と人物評

第12節 友誼と温情主義



あーすぷらざ 外観

発表者からひとこと

伝記の初っ端から「皇紀二千六百五年」「金甌無缺」と云う言葉を目にした私は、尋常一般的な読み方では解説不可能と思い、一字一句精読する事にしました。三溪の胸中には純粋な国粹主義と儒教神道の精神が宿っていると見極め、漢学や儒教の下地が必要不可欠と感じ、「性格九～十二節」を発表するにあたりその下調べに2ヶ月を費やしました。儒学（四書五経）の一部分の論語を少し勉強したのみで、それらのほんの初歩の段階程度です。“三溪研究”は囲碁と同様に、掘り下げる程に奥が深いものと痛感しており、私にとっては生涯学習となる事でしょう。

翁の崇高なる人徳、人柄の根源は何か。短文をすべて誦読（教育勅語を含む）したので、皆さんのご意見、ご批判なり、又、感想をお願いすると共に、新たな三溪研究の一端となれば幸甚の至りです。

（山崎宣晴）



山崎さん（左から2人目）

